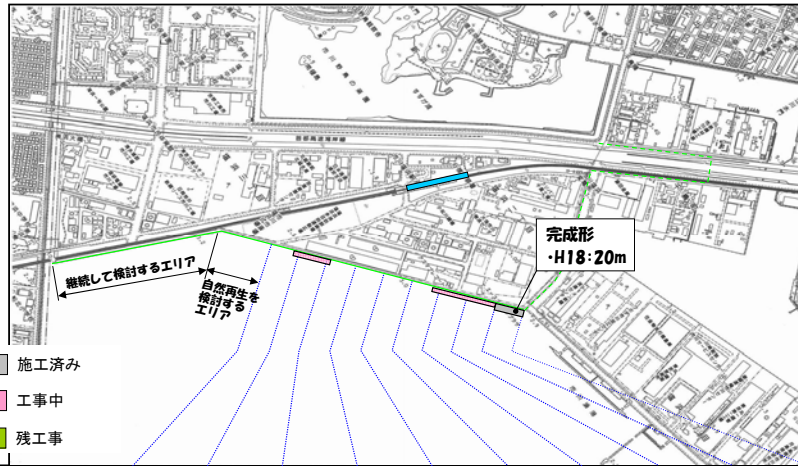


(3) 工事の進捗状況(残工事の整理)

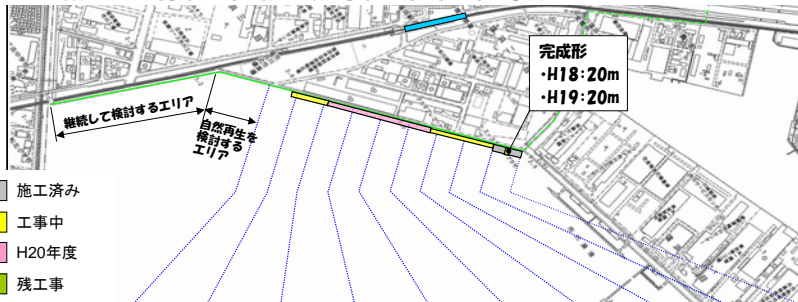


工種・箇所区分	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海城工事 捨石+H鋼杭(倒壊防止)		120m					230m		100m
海城工事 被覆石(バリエーション)									20m 20m
陸域工事 H鋼杭+鋼矢板(倒壊防止)									80m
陸域工事 被覆石(バリエーション)									20m

4

(4) H20年度工事(素案)

① 第1案(捨石、海側H鋼杭)+(陸側H鋼杭・鋼矢板)



工種・箇所区分	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海城工事 捨石+H鋼杭(倒壊防止)		120m		356m			230m		100m
海城工事 被覆石(バリエーション)									20m 20m
陸域工事 H鋼杭+鋼矢板(倒壊防止)					約600m				80m
陸域工事 被覆石(バリエーション)									20m 20m

メリット

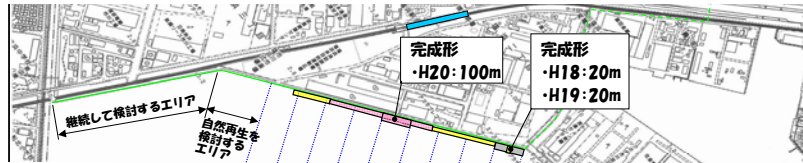
- 対象範囲の緊急対応が完了する。
- 対象範囲の地震時対応が進む。
- バリエーションに影響しない工事なので検討時間ができる。

デメリット

- 新基本断面での完成形確認は20mに限られる。

5

② 第2案
(捨石、海側H鋼杭) + (中央部100m完成形) + (陸側H鋼杭・鋼矢板 約400m)

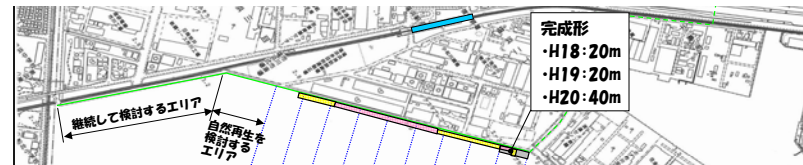


工種・箇所区分	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海域工事 捨石+H鋼杭(倒壊防止)		120m		35m			230m		100m
被覆石(バリエーション)					100m				20m20m
陸域工事 H鋼杭+鋼矢板(倒壊防止)						約400m			80m
被覆石(バリエーション)					100m				20m20m

- メリット**
- 対象範囲の緊急対応が完了する。
 - 比較的広い範囲での新基本断面が確認できる。

- デメリット**
- 地震時の対応が不十分のままとなる。
 - 完成形とする範囲のバリエーション検討時間が短い。
 - 完成形区間の底質に係わる判定基準値を早急に決める必要がある。
 - 台船を使用した海上工事が必要となり、工事費が割高となる。

③ 第3案
(捨石、海側H鋼杭) + (完成形40m) + (陸側H鋼杭・鋼矢板 約500m)



工種・箇所区分	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海域工事 捨石+H鋼杭(倒壊防止)		120m		35m			230m		100m
被覆石(バリエーション)									20m20m
陸域工事 H鋼杭+鋼矢板(倒壊防止)						約500m			80m
被覆石(バリエーション)									20m20m

- メリット**
- バリエーションに影響しない箇所の完成形であり、検討時間ができる。
 - 対象範囲の緊急対応が完了する。
 - 新・旧基本断面が隣り合うことになり、完成形の比較が容易。

- デメリット**
- 地震時の対応区間が短い。
 - 新基本断面での完成形確認区間が短い。